

日本言語学会（「危機言語」小委員会）主催公開シンポジウム

フィールドワークの光と影 ー今なぜ、危機言語に挑むのか？ー

日時：2006年2月11日（土）13:00-17:20

場所：学士会館2階202号室

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28 電話：03（3292）5936

- ◆ はじめに
宮岡伯人（大阪学院大学教授） 13:00-13:20
- ◆ 講演 Part1
宮本律子（秋田大学教授）
フィールドワーカーの受難と希望の地
：多言語社会アフリカでマイノリティ言語を調査する 13:20-14:00
Hull M. Kerry（麗澤大学助教授）
Responsibility amid Objectification: Negotiation Ethics in Fieldwork and
Data Collection 14:00-14:40
- ◆ 休憩・ポスターセッション 14:40-15:20
佐々木冠（札幌学院大学助教授）
水海道方言の文法から見えてくるもの
遠藤史（和歌山大学助教授）
分析にチャレンジ！東シベリアのコリマ・ユカギール語の使役文
千田俊太郎（日本学術振興会特別研究員）
ことばが分ける二つ、組合せる二つ---ドム語（パプア・ニューギニア）
永山ゆかり（北海道大学スラブ研究センター 21世紀COE研究員）
過去と未来のない言語---カムチャッカのアリュートル語
- ◆ 講演 Part2
呉人恵（富山大学教授）
ことば、その限りない豊かさとかげがえのなさ
：ツンドラのトナカイ遊牧民が紡ぐコリャーク語を掘り起こす 15:20-16:00
奥田統巳（札幌学院大学助教授）
フィールドの風景
：調査される側からはどう見えるか—アイヌ語— 16:00-16:40
- ◆ 総合討論 16:40-17:20
総合司会 梶茂樹（京都大学教授）